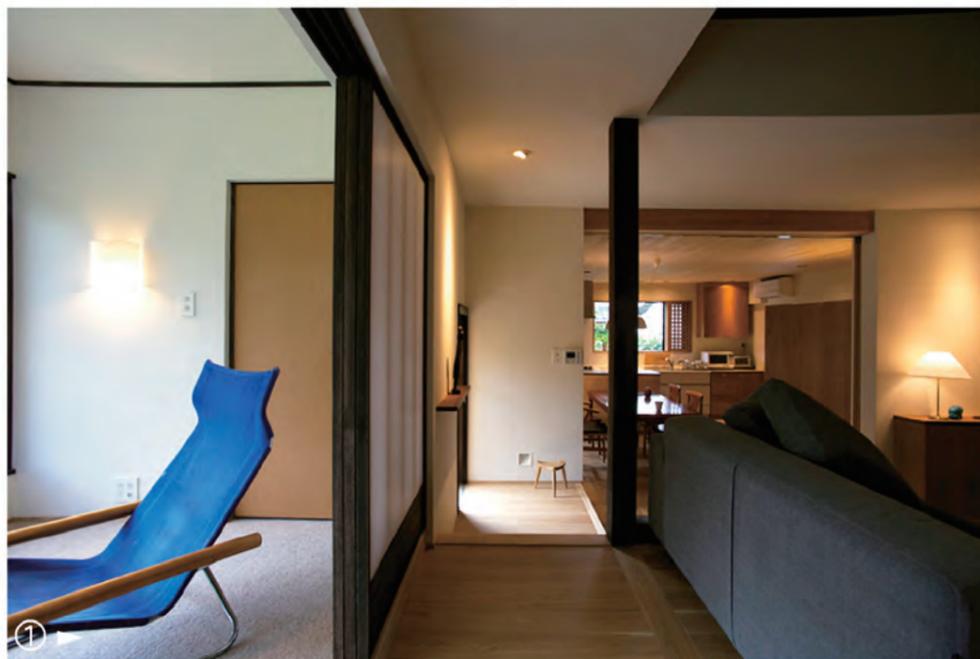


耐震性と空間の開放性のバランスをいかに両立させるかは、こうした民家のリフォームでは特に難しい課題である。この作品は、壁を設けることで生まれる「影」をポジティブにとらえ、暗さを感じさせない落ち着きと奥行きのある空間を生み出すことに成功している。

リフォーム前後の写真



↑ 既存 改修後
住みながらの工事であった為
2期工事に分けて行われた。



リフォームの動機/設計・施工の工夫点/施主の感想・満足度/住宅の価値を向上させた内容など

みかん農家の典型的な田の字型プランの改修。
リフォームの醍醐味というのは、新築では成立しない条件が受け入れられるところにある。田の字型プランの場合、L(リビング)があるべき南側に仏間(客用)が鎮座することで台所やLといった私用な場所が北側(ネガティブ)に追いやられる。今、新築でこんなプランを持っていけば「暗い」と一蹴されそうな間取りでも、リフォームではそれが好意的に受け入れられる。幸い今回の計画では北側に張り出していた部屋から安定した光(順

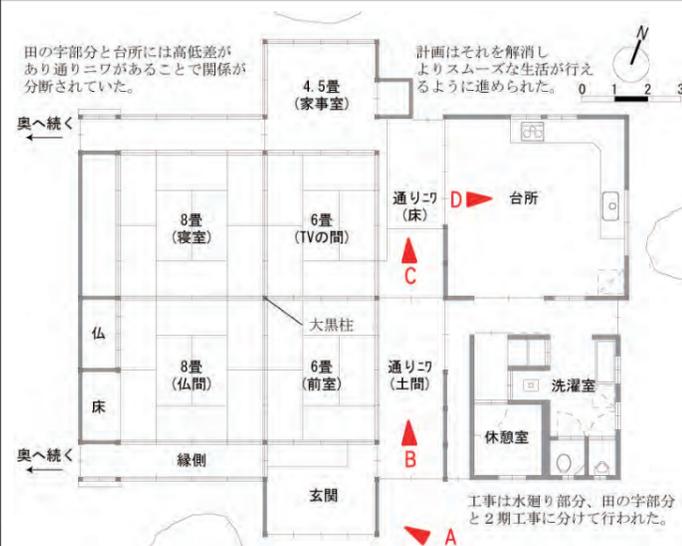
光)が入る為、間に鎮座するLスペースは落ち着きある空間になると自信を持って計画を進めた。Lのソファに座ると北庭の紅葉、東庭の柿の木、南庭の榎の木へと視界が抜け暗さを感じさせない。木には弁柄と柿渋を用いて、古い木、新しい木、仏間の木と部材ひとつひとつに対して色決めをしている。一見煩雑になりそうな色分けがうまく成立しているのは薄く漂う影の存在があるからだと言える。80歳を超える施主様も、家の記憶が継承されながら上質な空間に生まれ変わったことに大変満足されている。

性能向上の特性
耐震性能、耐久性、バリアフリー性能、防音・遮音性能、意匠的付加価値

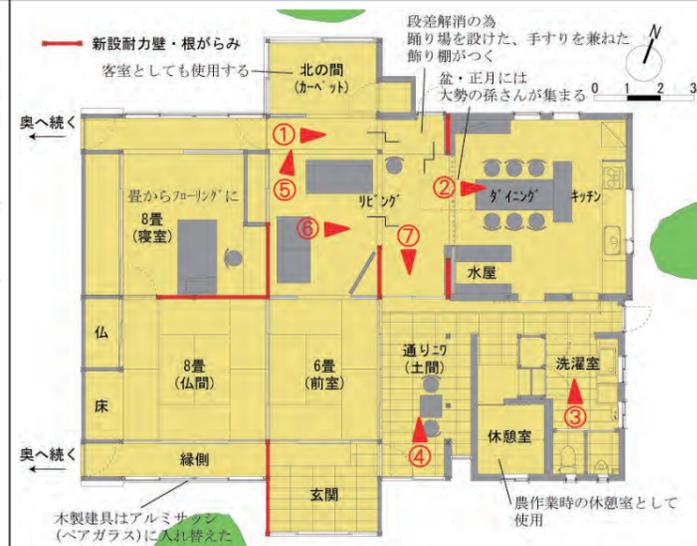
特に配慮した事項
柱や鴨居等の様々な線が混じることで煩雑な印象であった。そこで鴨居から上を大壁、鴨居から下(開口部)を真壁とすることで納まりを破綻させることなく印象を整えた。

データ	
所在地	和歌山県有田市
新築竣工年	不明
築後年数	約80年
施工期間	150日間
該当工事床面積	156.24㎡
総工事床面積	156.24㎡
該当部分工事費	1590万円
総工事費	1590万円
居住者構成	65歳以上:2人 / 15~64歳:1人 / 15歳未満:0人

リフォーム前の平面図



リフォーム後の平面図



リフォーム部位: ■居室/ ■台所/ □浴室/ ■便所/ ■洗面所/ ■廊下/ □階段/ ■玄関/ □クローゼット/ □共用部分/ □その他